

s t o p

令和元年12月

(公社)山形県トラック協会

## 酒気帯び運転検挙

### 本年3件目

12月19日(金)山形市内で事業用大型貨物自動車  
が軽自動車に追突する人身事故が発生。  
駆けつけた警察官にプロのドライバーが酒気帯  
び運転で逮捕された。

6月、10月に続き今年3件目!!!!!!

由々しき状況!!!!!!!!!!!!!!

**直ちに、全営業所で確認してください。**

**○ 点呼、特にアルコール検知は確実か？**

**○ ドライバーに対する指導教育が行き届いて  
いるのか？**



山運整第387号  
令和元年12月23日

公益社団法人山形県トラック協会会長 殿

国土交通省東北運輸局山形運輸支局長



### 事業用自動車の運転者に対する飲酒運転の防止等法令遵守の徹底について

国土交通省においては、平成29年6月にまとめられた「事業用自動車総合安全プラン2020」に基づき、事業用自動車における飲酒運転ゼロを目標とし、様々な取組を実施しているところです。また、令和元年度年末年始の輸送等に関する安全総点検においても、飲酒運転の防止について重点的に取り組んでいる中、山形県内では今年に入り、貨物自動車運送事業自動車の飲酒を伴う事故等が3件発生しており、非常に憂慮すべき事態となっております。

平成28年5月に閣議決定された「アルコール健康障害対策推進基本計画」においても、点呼時のアルコール検知器の使用と目視等での酒気帯びの有無の確認について更なる徹底を図ることとしており、政府としても飲酒運転の根絶に強力に取り組んでいる中で飲酒運転が行われたことは、運送事業に対する社会の信頼を揺るがす事態であり、誠に遺憾であると言わざるを得ません。

つきましては、飲酒運転を防止する取組として、「自動車運送事業者が事業用自動車の運転者に対して行う一般的な指導及び監督の実施マニュアル」等を活用して頂くとともに、特に下記の事項について貴会傘下会員に対し改めて周知徹底をお願いします。

### 記

運転者に対する指導・監督、点呼等において、以下のことを徹底すること。

1. 飲酒による身体への作用・影響や飲酒運転の危険性等を事例を用いて理解させること。
2. 確実な点呼の実施体制が確保できているか確認し、必要に応じ見直しを行うとともに、点呼時におけるアルコール検知器を用いた酒気帯びの有無の確認を行うこと。
3. 運転者の飲酒状況を把握するとともに、日常的に飲酒する習慣がある運転者に対しては、遠隔地の点呼において確実に酒気帯びの有無を確認できる機器を用いるなどにより管理を行うこと。

#### 【参考】

「アルコール健康障害対策推進基本計画」（平成28年5月31日閣議決定）

#### IV 基本的施策

##### 1. 教育の振興

##### (3) 職場教育の推進

○自動車運送事業における運転者の飲酒運転の防止のため、講習・セミナー等を通じ、運行管理者・運転者に対してアルコールに関する基礎知識や飲酒運転の禁止等について周知・指導を行う。また、点呼時のアルコール検知器の使用と目視等での酒気帯びの有無の確認について、更なる徹底を図る。